

**圧倒的なスケールとインパクトを誇る“ヒルズの未来形”
「麻布台ヒルズ A 街区・C 街区」が竣工
～多様な都市機能が高度に複合した立体緑園都市を具現化～**

森ビル株式会社(東京都港区、代表取締役社長:辻 慎吾)および日本郵便株式会社(東京都千代田区、代表取締役社長:千田 哲也)が参加組合員として参画し、虎ノ門・麻布台地区市街地再開発組合(東京都港区、理事長:曲谷 健一)が推進する「麻布台ヒルズ」(虎ノ門・麻布台地区第一種市街地再開発事業)の A 街区(麻布台ヒルズ JP タワー)および C 街区(ガーデンプラザ)が、6月30日に竣工し、本日(7月3日)竣工式を執り行いました。



「立体緑園都市(ヴァーティカル・ガーデンシティ)」を実現

「麻布台ヒルズ」のコンセプトは、“緑に包まれ、人と人をつなぐ「広場」のような街 -Modern Urban Village”。約 8.1ha の広大な計画区域は圧倒的な緑に包まれ、約 6,000 m²の中央広場を含む緑化面積は約 2.4ha に上ります。

「麻布台ヒルズ」では、細分化した土地を取りまとめて大きな敷地を生み出し、そこに A 街区を始めとする複数の超高層建築を建てることで、足元には緑豊かで広大なオープンスペースを創出し、住む・働く・学ぶ・遊ぶ・憩うなど、多様な都市機能が徒歩圏内に集約された「立体緑園都市(ヴァーティカル・ガーデンシティ)」を実現します。

世界超一流の才能が参画

A 街区は、高さ約 330m を誇る多用途複合の超高層タワーです。外観デザインは PC&P (ペリ・クラーク・アンド・パートナーズ、米国) が担当。総貸室面積約 204,000 m²・基準階面積約 4,600 m²の大規模オフィス、世界有数のラグジュアリーリゾートを手掛けるアマンとのパートナーシップによる「アマンレジデンス 東京」、最新の医療機器を導入し高度な専門性を持つ大学病院スタッフが提供する人間ドック「慶應義塾大学予防医療センター(仮称)」、50 ヲ国以上、約 700 人の生徒が在籍する都心最大規模のインターナショナルスクール「ブリティッシュ・スクール・イン東京」に加えて、多彩な店舗が揃う大規模な商業施設を併設します。

C 街区のユニークな建築は、ロンドンオリンピックの聖火台など、数々の独創的なプロジェクトを手掛けてきたデザイナー兼クリエイターのトーマス・ヘザウィック氏(英国)がデザインしました。なお、C 街区を含む「麻布台ヒルズ」の低層部デザインは、ヘザウィック・スタジオが日本で初めて手掛けた建築プロジェクトです。

2023 年秋の開業に向けて、引き続き「麻布台ヒルズ」プロジェクトを推進し、国際都市・東京のさらなる磁気向上に貢献してまいります。

【本件に関するお問い合わせ先】

森ビル株式会社 広報室

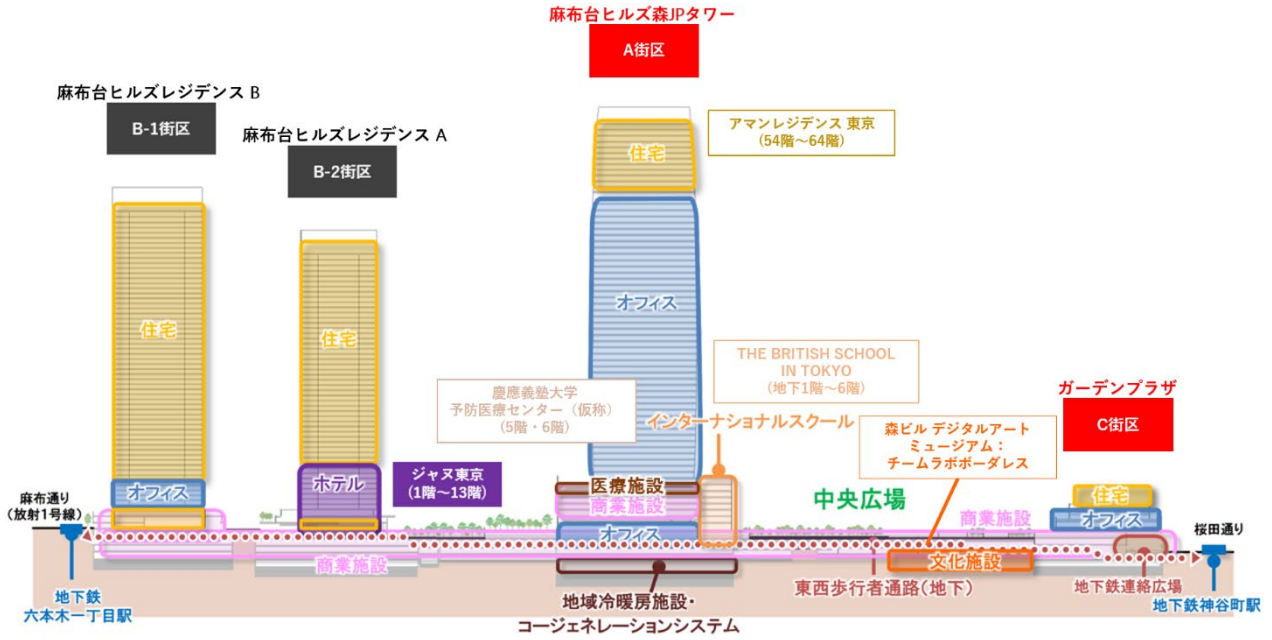
TEL : 03-6406-6606

FAX : 03-6406-9306

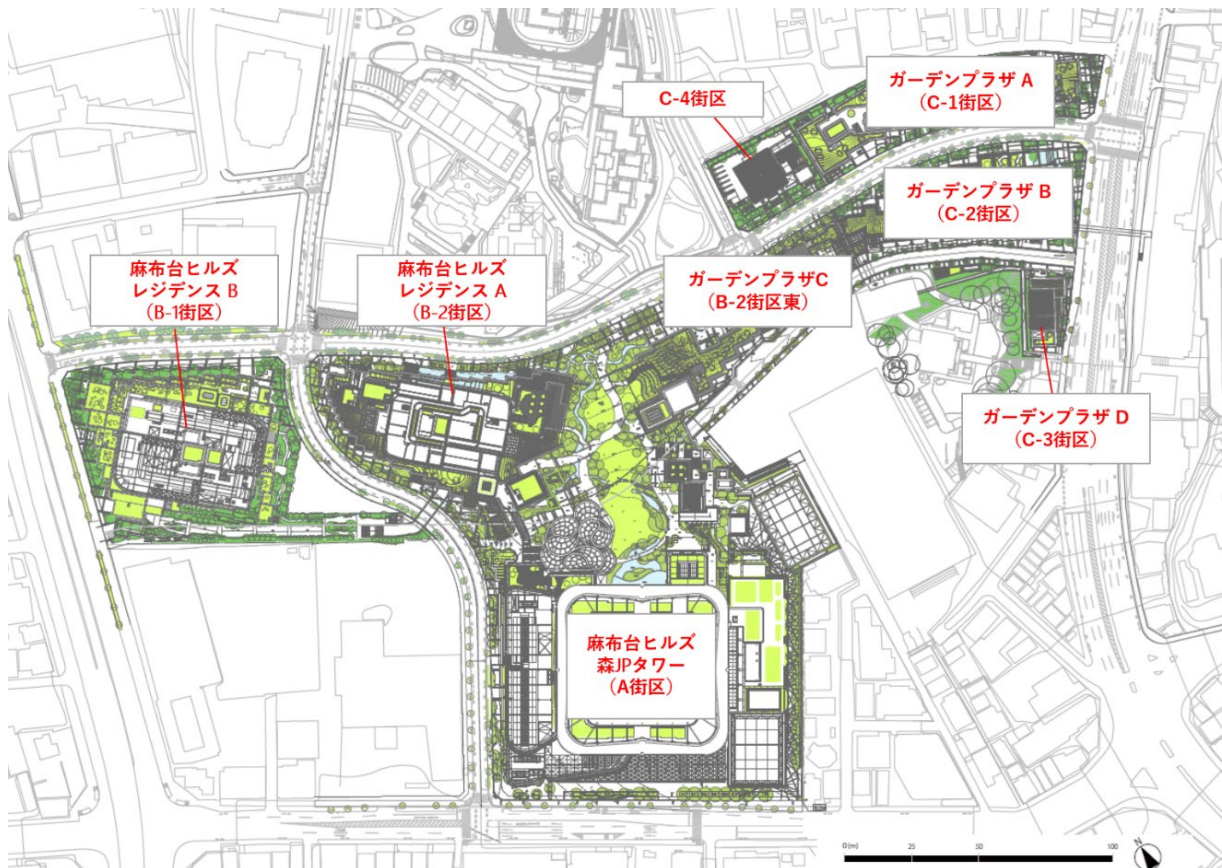
E-mail : koho@mori.co.jp

<麻布台ヒルズ>

【立面図】



【配置図】



建物概要

A 街区（麻布台ヒルズ森 JP タワー）

所在地	: 港区麻布台一丁目の一部
敷地面積	: 約 24,100 m ²
延床面積	: 約 461,770 m ²
建物高さ	: 約 330m
階数	: 地上 64 階、地下 5 階
構造	: S 造（一部 SRC 造および RC 造）
用途	: 住宅、事務所、診療所（無床）、店舗、インターナショナルスクール、駐車場など
事業主	: 虎ノ門・麻布台地区市街地再開発組合
基本設計	: 森ビル株式会社 一級建築士事務所、株式会社日本設計
実施設計	: 森ビル株式会社 一級建築士事務所、株式会社日本設計、 清水建設株式会社 一級建築士事務所（地下構造）
デザイナー	: 外装 - Pelli Clarke & Partners 低層部 - Heatherwick Studio オフィスエントランス - Yabu Pushelberg 住宅インテリア - Yabu Pushelberg 商業空間 - A. N. D. 商業空間（エントランス） - 藤本壮介建築設計事務所
施工者	: 清水建設株式会社
着工	: 2019 年 8 月
竣工	: 2023 年 6 月

C 街区（ガーデンプラザ）

所在地	: 港区虎ノ門五丁目の一部
敷地面積	: C-1 街区 約 4,750 m ² / C-2 街区 約 6,350 m ² / C-3 街区 約 900 m ² / C-4 街区 約 1,690 m ²
延床面積	: C-1 街区 約 10,590 m ² / C-2 街区 約 31,540 m ² / C-3 街区 約 1,710 m ² / C-4 街区 約 1,810 m ²
建物高さ	: C-1 街区 約 18m / C-2 街区 約 41m / C-3 街区 約 23m / C-4 街区 約 13m
階数	: C-1 街区 地上 3 階、地下 2 階 / C-2 街区 地上 8 階、地下 3 階 / C-3 街区 地上 3 階、地下 1 階 / C-4 街区 地上 3 階、地下 1 階
構造	: C-1・2・3 街区 S 造（一部 RC 造） / C-4 街区 RC 造（一部 S 造）
用途	: C-1 街区 店舗、美術館、駐車場など / C-2 街区 住宅、事務所、店舗、駐車場など / C-3 街区 店舗 / C-4 街区 寺院、専用住宅、駐車場など
事業主	: 虎ノ門・麻布台地区市街地再開発組合
基本設計	: 森ビル株式会社 一級建築士事務所、株式会社山下設計
実施設計	: 森ビル株式会社 一級建築士事務所、株式会社山下設計、 株式会社大林組 一級建築士事務所（C-2 街区、C-3 街区構造共同設計）
デザイナー	: 外装 - Heatherwick Studio 住宅 - Marco Costanzi Architects（共用部 / エントランスなど） 株式会社日建スペースデザイン（専用部） 事務所共用部 - 株式会社山下設計
施工者	: 株式会社大林組
着工	: 2020 年 8 月
竣工	: 2023 年 6 月

添付資料：「麻布台ヒルズ」について

「麻布台ヒルズ」は、「アークヒルズ」に隣接し、「文化都心・六本木ヒルズ」と、「グローバルビジネスセンター・虎ノ門ヒルズ」の中間にあり、文化とビジネスの両方の個性を備えたエリアに立地しています。約8.1haもの広大な計画区域は圧倒的な緑に包まれ、約6,000 m²の中央広場を含む緑化面積は約2.4haに上ります。

延床面積約861,700m²、オフィス総貸室面積213,900 m²、住宅戸数約1,400戸、A街区（森JPタワー）の高さは約330m、就業者数約20,000人、居住者数約3,500人、想定年間来街者数2,500～3,000万人で、そのスケールとインパクトは六本木ヒルズに匹敵します。また、国際水準のオフィスや住宅、商業施設に加え、アマンとのパートナーシップによるホテルブランドレジデンス「アマンレジデンス 東京」や、世界初のアマンの姉妹ブランド「ジャヌ」のホテルのほか、50か国以上、約700人の生徒が在籍する都心最大規模のインターナショナルスクール「ブリティッシュ・スクール・イン・東京」、お台場で人気を博した「森ビル デジタルアート ミュージアム：チームラボボーダレス」など、豊かな都市生活を実現する多彩な機能も備えます。

“Modern Urban Village”を支える「Green」と「Wellness」

「麻布台ヒルズ」のコンセプトは「緑につつまれ、人と人がつながる『広場』のような街 “Modern Urban Village”」。そして、このコンセプトを支える2つの柱が「Green」と「Wellness」です。圧倒的な緑に囲まれ、自然と調和した環境の中で、多様な人々が集い、人間らしく生きられる新たなコミュニティの形成を目指します。

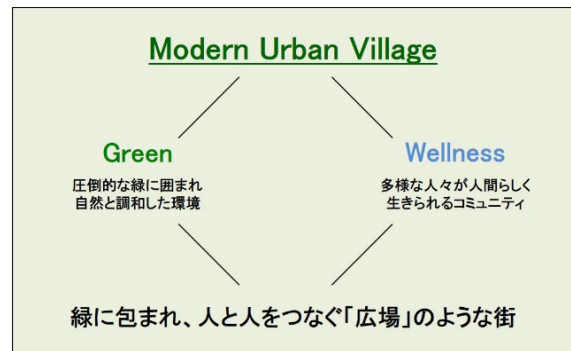
「麻布台ヒルズ」では、はじめに人の流れや人が集まる場所を考え、街の中心に広場を据えて、シームレスなランドスケープを計画。その後、3棟の超高層タワーを配置しました。これは、まず建物を配置し、空いたスペースを緑化するという、従来の手法とは全く逆のアプローチです。高低差のある地形を生かして、低層部の屋上を含む敷地全体を緑化することで、都心の既成市街地でありながら、約6,000m²の中央広場を含む約2.4haの緑地を実現しました。水と緑につながるランドスケープを整備し、自然あふれる憩いの場を創出します。また、街全体で「RE100 (Renewable Energy 100%)」に対応する再生可能エネルギーの電力を100%供給します。世界最大規模の登録面積となる「WELL認証」や「LEED-ND認証」、「LEED-BD+C認証」の予備認証も取得しています。

加えて、「慶應義塾大学予防医療センター（仮称）」を核として、スパやフィットネスクラブ、レストランやフードマーケットといったさまざまな施設をメンバーシッププログラムやサービスで結び、この街で住み、働くことのすべてが「ウェルネス」に繋がる仕組みの構築を目指します。

「麻布台ヒルズ」では、都市の脱炭素化、生物多様性の保全、省エネルギー化、真に豊かな健康等、世界中が頭を悩ませている様々な課題に対する1つの解を提案します。



約6,000 m²の広さを誇る緑豊かな中央広場(イメージ)



コンセプトの柱「Green」と「Wellness」

人の営みがシームレスにつながる街

「麻布台ヒルズ」は、人々の営みがシームレスにつながる街になります。オフィス、住宅、ホテル等の施設ありきで都市を設計するのではなく、施設の垣根を取り払って、人の営みから都市づくりにアプローチしました。この街では、「暮らす」「働く」「集う」「憩う」「学ぶ」「楽しむ」「遊ぶ」等、人々の様々な営みがシームレスにつながり、人と自然とが調和し、人と人がつながり、刺激しあいながら創造的に生きられる新しい都市生活を実現します。様々な施設が共に連携し、人々に新たなライフスタイルを提案することで、緑豊かな街全体が学びの場となり、仕事場となり、我が家となり、遊び場にもなります。

オフィス	住宅	学校
ホテル	ショップ	レストラン
病院	文化施設	スポーツ

